

柔道整復科教員 高橋 亮

柔道整復や鍼・灸・あん摩マッサージ指圧の業務を行うためには、全身の構造や機能を深く理解することが必要です。また、顔や性格に個人差がみられるように、身体の構造にも特徴があり、必ずしも教科書通りではありません。本校教員は専門科目の教育内容を充実させるため、そして臨床への応用力を養うことを目的に、愛知医科大学医学部解剖セミナーに参加し、研究・教材開発に取り組んでいます。その活動の一環として、2009年11月に大阪で開催されました第18回日本柔道整復接骨医学会学術大会で研究発表を行いましたので紹介します。

「顎関節脱臼画像教材の作成と教育効果」

高橋亮^{1) 2) 3)}、林省吾⁴⁾、木全健太郎^{1) 2)}、中野隆²⁾

1) 中和医療専門学校柔道整復科、2) 愛知医科大学医学部解剖学講座、3) 岐阜大学医学部解剖学、4) 愛知医科大学医学部医学教育センター

顎関節脱臼は、柔道整復師の業務で比較的良好に遭遇する外傷である。学生に顎関節脱臼の特徴をより深く理解してもらい、卒業後、自信をもって整復に臨めるようになることを目的として、画像教材を作成した。

画像教材は、愛知医科大学解剖学セミナーに供された解剖実習体1体を用いて作成した。顎関節の運動時・脱臼時・整復時の関節包や関節円板の伸縮、下顎頭と関節円板の動きなどを動画にて記録した。教材は、解剖学および顎関節脱臼各論の授業が修了した2年次学生の実技授業において、補助資料として供覧した。実技授業開始時および終了時に、自身が顎関節脱臼の整復を行った場合の成功率を予想するアンケート調査とともに、国家試験から解剖学5問を抽出して試験を行った。

その結果、成功率は上昇傾向がみられ、解剖学試験の平均点は有意な上昇を認めた。

成功率に上昇傾向がみられたことから、本教材を用いた授業によって、学生が顎関節脱臼の整復について自信を深めたことが示唆された。解剖学試験の平均点に有意な上昇が認められたことから、顎関節およびその周囲構造を理解するのに有用な教材であったと考えられた。